

令和3年度小松市立安宅中学校 学校評価1 (年度末)

めざす児童生徒像

『智仁勇 未来を拓く生徒』
 「智」 求めてやまぬ生徒
 「仁」 思いやりのある生徒
 「勇」 自ら行動できる生徒

※児童生徒達成結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒		
(学校重点項目)	生徒指導	・④を90%以上にする	① 学校では自分は大切にされている。	84			86			①④⑤の項目で肯定的な回答が増加した。特に④は9%の増加であり、目標の90%を超えることができた。行事等で生徒の活躍の場を意図的に設定した結果が現れたのではないかと考える。また、先生方の褒める・認める声掛けによる効果も大きいと考える。	・みんなで何かをすることが楽しいと回答している生徒の割合が94%と高いので、今後もみんなで何かを取り組ませながら、個人の活躍の場を用意する活動を増やしていく。また、意図的な仕掛けによって生徒の些細な変化を見取り、褒める・認める声掛けをしていきたい。 ・生徒同士のつながりの場を作っていく、安心できる学校・学級づくりをしていきたい。
			② 学校にいて安心する。	76			75				
			③ 学校では自分が役立っていると感じる。	56			55				
			④ 学校が楽しい。	82			91				
			⑤ みんなで何かをすることは楽しい。	92			94				
			集計	78			80				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒		
重点項目	働き方や業務の改善	・①について100%にする	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	61			56			①の項目は56%、④の項目は61%と中間評価より減少した。2学期は学校行事や研究発表会、市の計画訪問など準備をかなり必要とする行事等が多かったからだと考える。また、③の項目は、月による差が見られ、半数以上の職員が定時退校ができていない。 ②の項目は、67%と以前より改善が見られた。学校行事など組織的に取り組む機会が多く、担当リーダーを中心として役割が明確であった成果と考える。	業務内容の見直しと適切な業務分担を行う。準備をかなり必要とする行事等は見直しをもって取り組むなどの手立てを考えていく。また、業務の優先順位を考え、効率的に行うなど個々の職員の時間管理について意識する。 企画委員会や分掌部会でそれぞれの業務内容の検証を行い、次年度に向けて変更・削減を含めて業務の在り方を考えていく。
			② 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	56			67				
			③ 月1回定時退校ができた。	44			44				
			④ 計画的に休養をとることができた。	72			61				
			集計								

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒		
学校研究	・すべての項目で90%以上にする		① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	94			100			①「考えを伝え合い、共に深め合うことができる道徳の授業づくり」をテーマに、定期的に講師を招聘し、校内研修を行うことができたことが100%に繋がった。 ②授業づくりの視点を共有して、指導案検討会や授業研究会を行ったことが100%に繋がった。 ③授業強化月間でのローテーション授業などにおいて、授業研究に主体的に取り組むことができた。また、その取組を学年や全体で共有できたことが100%に繋がった。	予定している研修等について、今後も計画的に実施していく。また、職員会議などで研究主任が定期的に目指す授業像や授業づくりの視点を確認していく。教員の取組や共通実践していくことを、全体で共有する。道徳科で大きくなってきた実践を他教科にもつなげていく。
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100			100				
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組む、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100			100				
			集計	98			100				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒		
指導力の向上	授業	・①～⑥の生徒のアンケートの割合を90%以上にする	① 生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	67	77	10	89	79	-10	①1学期と比較すると、学年間で伸びに差があるものの、教員、生徒共に伸びている。 ②⑤「学びのマップ」に加え、「考えを深めるための聞き方」も全員で共通して活用することを通して、聴き合い、学び合うことを丁寧に指導したことが、成果として表れている。 ③④1学期と比較すると、生徒、教員ともにわずかが低くなっている。 ⑥1学期の結果を受けて、生徒と振り返る活動の意味や形式を共有したことが、結果につながった。 ⑦各教員が形成的な評価を意識した授業を行っている結果となった。	①教師の発話量を減らし、コーディネートしていく授業づくりを推進する。具体的には、1時間の授業の中で、生徒に個人で考えさせる場面、目的を持って対話させる場面を準備する。また、道徳科で実践してきた、「問い返し」や「ねらいに迫る深める発問」などを各教科にもつなげていく。 ②道徳科だけでなく、全教科での指導につなげていく。 ③④発表の機会を確保し、生徒に授業で自分の考えや意見を発表することを常に意識させていく。さらに、振り返る活動などを使って、記述する機会を確保する。その際、記述の視点を生徒に伝え、質の向上に努める。さらに、効果的な記述の方法を学年や個のレベルに応じて進める。 ⑤友だちの考えや意見を聞いたり、自分の意見と比べたりすることの大切さを意識させる。 ⑥どの教科でも必ず振り返る活動の時間を確保し、その活動の意味を生徒と共有する。 ⑦引き続き、授業での見取りや必要な場面での形成的な評価を丁寧にを行い、生徒、教員ともに学習の過程を修正しながら進めていく。
			② 生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	94	84	(10)	94	86	-8		
			③ (発表力) 生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	83	77	(6)	78	73	-5		
			④ (記述力) 生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	78	81	3	72	80	8		
			⑤ 生徒は、友達と話し合うとき、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて(聞いて)、自分の考えを持つことができた。	94	84	(10)	89	91	2		
			⑥ 生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	83	91	8	89	95	6		
			⑦ 一人一人の学びの多様性にに応じて、学習の過程における形成的な評価を行っている	94			94				
			集計	85	82		88	84			

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒		
学力の定着	学力調査	・すべての項目で90%以上にする	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	94			94			①全国学力調査および基礎学力調査の結果を受けて、記述力や活用力の向上のために新たな取組を示し、共通理解を図って取り組んだ。中間評価と同様に94%で成果が見られた。 ②2学期以降も学習指導計画綴りに綴った学校力向上ロードマップを職員会議に持ち寄り、各担当から取組の実施状況等を報告しているため100%となった。 ③小中合同の学力担当者等は行わなかったが、それぞれの学校で分析・検証したものを冊子にして回覧し、取組の共通理解を図った。その結果、83%に向上した。	①定期テストへの県評価問題等の類題を入れるなどし、記述力や活用力の向上に取り組んだ成果と課題について検証し、授業等に活かしていく。 ②次年度も学校力向上ロードマップやカリキュラムマップを活用しながら、いつ、誰が、どのような企画・実施を行っていくのか共通理解を図って取り組み、実施状況について職員会議で検証していく。 ③次年度もそれぞれの学校の状況や取組について共通理解が図れるように合同研修や冊子等を活かしながら、小中連携を推進していく。
			② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	100			100				
			③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	61			83				
			集計	85			91				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策		
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)						
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒			保護者	※差
学力の定着	家庭学習	・③の項目で90%以上にする	① 自分で計画を立てて勉強している。	56	60	63	4	56	63	62	7	①教室後方の黒板を利用し、家庭学習課題の内容や期限を把握しながら、終礼前にライフ(生活ノート)を記入した。若干の改善は見られたものの計画したものを実行できていない生徒が見受けられる。教職員・生徒・保護者の約60%しか肯定的な回答をしていない。 ②中間評価に引き続き、学校全体で、自学ノートや各教科の家庭学習課題に対する指導と評価が大切であると考えるため89%という結果となったが、指導と評価ができていないと感じている教員もいる。 ③1日に2時間以上という高い目標ではあるが、達成できたと感じている生徒は中間評価に比べ4%向上した。	①次年度も生徒が計画を立てる取組は継続し、ライフ(生活ノート)については安宅中学校バージョンに修正する。実施については粘り強く声かけていく。また、生徒会やリーダー会による家庭学習啓発の取組として実施していく。 ②学年の実状に応じた家庭学習の取り組み方、生徒の学習意欲の向上や学力の定着につながるような評価・指導を実践していく。 ①・③目標学習時間の見直しを行い、1週間の家庭学習のモデルを示すなど、実現可能な家庭学習時間の提示を行う。また、各学年の現状に応じて家庭学習の内容を吟味する。
			② 生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	89			89						
			③ 1週間に14時間以上を目標にして達成することができている	35			39						
			集計	73	48		79	51					